



平成21年度 第三回イスラーム講演会「日本におけるイスラーム銀行設立の可能性」

平成21年10月10日 2時より文京キャンパスC館で当研究所主催による第3回イスラーム講演会が開催された。今回はシリアからイスラーム世界では知らない人はいないと言われるくらい有名なイスラーム法学者であるワハバ・ムスタファー・アッズヘイリー博士をお迎えして、イスラーム銀行の特質を普通銀行と比較しながら、イスラーム法学の面から詳細に語っていただき、その上でイスラーム銀行が日本で成立するかどうか、またそのためにはどのような条件が必要になるのかといったテーマで語っていただいた。博士は現在、世界各国にあるイスラーム銀行のイスラーム法に関する委員会のメンバーとしても活躍されており、世界中を駆け巡って忙しい中、今回の講演をお願いするには3年の時を経てようやく実現したものである。

講演はアラビア語で行われ、逐次日本語に通訳された。博士はイスラーム関連の著述も多く、著名な先生を一目見ようというものの講演会とは異なり、イスラーム関係者や銀行関係者の姿も見受けられた。以下に講演の内容の概略をお知らせする。

1 はじめに

伝統的な商業銀行の歴史は西暦16世紀まで遡るが、イスラーム銀行は出来たのは1976年ドバイ・イスラミック・バンク設立以降である。銀行の役割は重要で、各国の経済発展の程度を表す指標となっている。イスラーム銀行も経済の発展に伴って、その形態は多様化している。

2 イスラーム銀行の主要業務

- (1) 銀行業務：イスラーム法に即した預金受付、送金、商業手形、貸付などの銀行業務
- (2) 金融・投資業務：イスラーム銀行の基本業務
 - 1) 投資＝イスラームで合法的な契約を通じ出資者、預金者の資金を投資＝イスラームが推奨する事業
 - 2) 契約の種類
 - ムダーラバ契約：銀行が事業実施者に資金を信託するパートナーシップ契約
 - ムシャラカ契約：銀行と事業実施者との共同経営契約
 - イジャラ契約：リース契約
 - 収益権のみのリース形式、
 - リース期間終了後に所有権を移転（設備を売却）するリース形式
 - 3) 売買の種類
 - バイウ・サラム：先渡し売買
 - バイウ・ムラバハ：転売形式の売買
 - バイウ・タクスイート：分割払い売買
 - (3) 社会貢献・奉仕：社会事業の立案、環境対策サービス、献金、社会奉仕、社会・文化・教育などに関する会議等の開催、ザカートに関する業務、無利子ローンの提供



講演するワハバ博士

3 普通銀行とイスラーム銀行との相違点

- (1) 利子の有無
 - 1) 普通銀行：利子の伴う資金の運用
 - 2) イスラーム銀行＝イスラームの教義で利子は禁止
「アッラーは商売を許し、利息を禁じておられる。」（クルアーン雌牛章275節）
「アッラーは利息（への恩恵）を消滅し、施し[サダカ]には（恩恵を）増加してください。」（雌牛章276節）
「あなたがた信仰する者よ、（真の）信者ならばアッラーを畏れ、利息の残額を帳消しにしないさい。」（雌牛章278節）
利子の禁止：貨幣の自然増殖の禁止＝不労所得の禁止
- (2) リスクの有無
 - 1) 普通銀行：利子設定の貸付による利益は確定しており、リスクは無い（少ない）

- 2) イスラーム銀行：イスラーム法で合法とされる投資契約のため損得のリスクがある
- (3) クレジットカード
 - 1) 普通銀行：カードの持ち主が清算を遅れた場合、持ち主が利子を支払うことになり、それは利益の一部となる
 - 2) イスラーム銀行：カードの持ち主が利子を負う事はなく、持ち主は期日どおりに清算するか、さもなければカードが無効になるかのどちらか。カード取得に際しては、イスラーム銀行も手数料を請求。
- (4) 利潤
 - 1) 普通銀行の利潤：基本的に一定額の利子
 - 2) イスラーム銀行の利潤：投資、運用を通じて、利益と損失の双方において顧客と取引＝時に応じて利益は変化し、資本や利益額の変化⇒まれに損失が生じた場合、「損失は利益とともに、あるいは利益は損失とともに」の原則による公正なバランス

4 イスラーム銀行の特徴

イスラーム銀行の理念はイスラーム法の原則に従い、利子を受け汚職行為に関与しないことにある。

- (1) イスラーム法の特徴＝慈悲と公正、友愛、公明正大さ、協力強調、信者間の同胞意識、互いに善を施し善悪を遠ざけるという考え方は、来世での裁きへの信仰により現世の行動に対する責任が生まれる。
- (2) 社会的連帯のうえに成り立つイスラーム銀行と顧客との関係
 - 1) イスラームの投資制度：「利益は損失とともに」の原則＝利益は投資でのリスクに相当するとの理解によって成立する原則
 - 2) 正当な利益を得、社会とイスラーム共同体の公益に利するため投資を推奨
 - 3) 債務者の支払延期の可能性
原則：「債務者がもし窮境にあるならば、そのめどのつくまで待て。」（雌牛章280節）
 - (4) イスラーム銀行のシャリーア監督委員会設置＝三名以上の専門法学者
 - (5) イスラーム銀行の目的＝経済開発と共に社会開発 → 困窮者への支援、結婚、教育、住居、医療等に無利子貸付の提供

5 イスラーム銀行の問題点

- (1) 短期、長期貸付に活発な動きが見られない。
- (2) イスラーム的金融による利益←利子による収益との疑惑＝イスラーム金融の解明が必要
- (3) 債務者の支払延期＝あまりに期限を引き延ばすようなら、善行に反したという点で処罰
- (4) シャリーアに則った普通銀行的機能の代替物を創出する困難さ

6 シャリーアの適用の問題点

- (1) シャリーア原則や規範の適用範囲
- (2) 利子を生む貸付を含む経済活動の現状への対応
- (3) イスラーム法の諸見解の解明

7 日本におけるイスラーム銀行設立の可能性

- (1) 法的整備の必要性：イスラーム金融業を理解してもらうため、イスラーム銀行業が行われている各国での法律を参考に
- (2) 少なくとも3名からなるシャリーア監督委員会の設置
- (3) イスラーム銀行運営の指導：運営体制は、銀行制度専門家の頭取と副頭取、行員には銀行業務訓練
- (4) イスラーム銀行独自のオフィス＝通常の銀行が、業務形態を真似てイスラーム窓口のようなものを開設することは許されない
- (5) 各種メディアでプロジェクトを広告
- (6) 資金調達
- (7) 口座を開設してもらい、利益の一定率をその持ち主に分配

第7回世界ハラール評議会 (WHC) 年次総会参加報告

イスラーム研究所シャリーア専門委員会委員 遠藤利夫

2009年11月10日(火)から同12日(木)、中国山東省青島市で開催された世界ハラール評議会(WHC)第7回年次総会に拓殖大学イスラーム研究所シャリーア専門委員会委員長・武藤英臣客員教授、徳増公明客員教授、新井卓夫委員、小林栄三科学委員、日本文化研究所長谷部茂主任研究員と小生の6名が参加した。

今回の総会に参加したハラール認証団体は32団体総勢48名で、国別ではインドネシア、マレーシア、オーストラリア、フィリピン、台湾、中国、日本、アメリカ、英国、オランダ、ベルギー、ドイツ、オーストリア、トルコ、レバノン、南ア、マラウイなどであった。

今総会是中国山東省政府支援のもと山東省イスラーム協会(SHANDONG ISLAMIC ASSOCIATION)がホスト役となって開催された。会場は青島市内にあるシャングリラホテル内の会議場であった。今総会の主要テーマは世界ハラール評議会会長の選出と2年任期を迎える各委員の選挙であった。

11月9日、本会議に先立ち午前9時より執行委員会をはじめ委員会毎に打ち合わせ会が持たれた。資料のコピー等事務処理が多くホテル内のビジネスコーナーを終日利用した。

11月10日、オープニングセレモニーは同ホテルのホールで午前9時半から山東省知事代行による祝辞で始められた。続いてホスト側挨拶、WHC会長、同執行委員長挨拶等続き、最後は山東省内の優良ハラール企業10社に対する表彰が行われ午前の部が終了した。同セレモニーにはハラール企業、団体関係者約100人の他、報道関係者を始め一般参加者約200人が会場を埋め尽くしていた。午後は2時半から世界ハラール評議会の本会議が開かれ、討議内容、日程など確認了承された。

11月11日、10時からハラール審査の標準的方法についてテクニカル委員長からOHPによる発表が行われた。11時から役員の変更作業がはじまった。今回の選挙に参加資格を持つのは26団体で役員候補推薦の後、投票をする方法が採られたため時間がかかり休憩をはさみながら午後7時過ぎまで行われた。新執行役員によるミーティングは午後8時半から行われ、来年度の開催地はトルコのイスタンブールに決定された。

11月12日、午前は評議会メンバー全員が青島市内にあるマスジドを訪問し中国人ムスリムたちとの友好関係を深めた。午後は評議会メンバー同士でのミーティングなどが開かれ今回のスケジュールが終了した。

改選にともなう新役員は次の通り。

会長 Lukumanul Hakim (インドネシア LPPOM MUI)

執行委員会(9名) :

- ①ALI CHAWK (オーストラリア AHFS) 再任
- ②MOHAMMED MOORAD BOOLEY (南ア NIHT) 再任
- ③武藤英臣 (日本 JMA/TSRI) 再任
- ④ABDULLAH FAHIM B AB RAHMAN (マレーシア IRFC Asia) 再任



総会会議風景



総会参加者集合写真

- ⑤SULAIMAN Zhang Rui Zhang (中国山東省 CSIA) 再任
- ⑥DR.MUHAMAD NADRATUZZAMAN (インドネシア LPPOM-MUI) 新任
- ⑦MAULANA M.SAEED NAVLAKHI (南ア SANHA) 再任
- ⑧SHAIGH THAFIR NAJJAAR (南ア ICOSA) 新任
- ⑨MOHAMMED EL-MOUELHY (オーストラリア HCAA) 新任

テクニカル委員会(5名) :

- ①DR.AHMED AL-ABSY (米国オマハ HALAL TRANSACTION OF OMAHA) 再任
- ②SALAHUDIN Ma (台湾 TAIPEI GRAND MOSQUE) 新任
- ③ALI FANOUS (ドイツ HALAL CONTROL EU) 新任
- ④YASMINA Ben-KOUBIA (オランダ HFFIA) 新任
- ⑤BADDREDIN HAWARI (ドイツ Islamic Center Aachen) 新任

シャリーア委員会(5名) :

- ①武藤英臣 (日本 JMA/TSRI) 再任
- ②DR.MUHAMAD NADRATUZZAMAN (インドネシア LPPOM-MUI) 再任
- ③MAULANA ABDOL WAHAB WOOKAY (南ア NIHT) 新任
- ④ABDULLAH FAHIM B AB RAHMAN (マレーシア IRFC Asia) 再任
- ⑤SALEEM CHIKWATU (マラウイ MAOH) 新任

仲裁委員会(3名) :

- ①Haj.ABDUL RAHMAN LINZAG (フィリピン IDCP) 再任
- ②Haj.RIAD A. JAMMAL (レバノン ISA) 新任
- ③MASOOD KHAWAJA (英国 HFA) 新任

選挙管理委員会(3名) : 3名共無投票で再任

- ①Haj.HABIB GHANIM (米国ワシントン Washington DC ISWA Halal)
- ②Haj.RIAD A.JAMMAL (レバノン ISA)
- ③遠藤利夫 (日本 JMA/TSRI)



トルコ人代表と共に

世界ハラール評議会（WHC）総会に参加して

イスラーム研究所シャリーア専門委員会委員 新井卓夫

11月10日から12日にかけて中国・山東省の青島で開催された世界ハラール評議会（WHC）総会に参加した。ご存知のように青島市は山東半島の付け根に位置し、東京からは飛行機で約3時間弱だが、福岡からは東京に出るよりも近い。

中国の発展は著しく、地方都市青島にも及んでいた。広々とした道路には、国産車だけでなく海外ブランドの現地生産車が多く走行し、市の中心街では高層建築が軒を連ねていた。

開会式：

到着後の翌10日には同宿のホテルを会場に開会式が行われ、聖クルアーン朗読後、山東省イスラーム教会会長が開会を宣した。興味深かったのは、山東省知事代行が招かれ挨拶をし、地方行政府もこの会議を支援していることだった。中国の西方ウイグル地区ではイスラームが何かと政治問題として話題になるが、中国政府が必ずしもイスラームを否定しているわけではないことが良く分かった。式典の最後にWHCの執行役員が登壇し、山東省でハラール製品を扱う優良企業10数社が表彰され、記念の盾が各役員から贈呈された。こういったことを通じてイスラーム教会が、国内のハラール産業の育成に寄与していることを知った。



山東省イスラーム教協会会長



イスラーム優良企業表彰式

青島モスク訪問：

会議の合間をぬって、青島市イスラーム教会が管理運営するモスクを見学した。小高い丘の中腹に聳えるモスクはまだ新しく、中庭も含めれば約1000人の信徒を収容できそうであった。この教会の副会長と若いイマームの話聞いてみると、モスク建設に際しては政府からも援助があったとのことだった。山東省の人口は約8百万人、その内60万人のムスリムがいる。モスクができた当時は金曜礼拝に集まるのは30人から50人だったが、現在は300人以上集まるようになったそうだ。モスクの周辺には付帯の施設も建設中で、何年後には青島のモスクを中心としたイスラーム文化センターになるものと思われる。



青島モスク内



青島モスク代表者たち

役員総会：

WHCの役員総会にも出席した。遠いところでは南アフリカ、カナダ、ニュージーランド、ヨーロッパ各国の代表者を始めとする世界32のハラール認証団体の代表者が白熱した議論を展開しているのを目の当たりにした。5月25日付タイム誌によるとハラール食品市場は年間6320億ドルで、世界の食品産業の16%とのこと。その育成に携わっているのがこの会議の代表者かとの思いで聴き入った。

会議の最後に、会長を始め執行役員、各委員会の委員の選挙が行われたが、その選挙も大変入念なもので、日本のように一回の選挙で決めるのではなく、何度も投票を重ね厳密に人選していた。当研究所のシャリーア専門委員会委員長の武藤客員教授とシャリーア専門委員会の遠藤委員も、それぞれ執行役員と選挙管理委員に選出され、引き続きWHCの運営に携わることになった。

青島の長い海岸道路をドライブしたが、ここは先のオリンピックでボートレースの会場にもなったところで、大陸の広々とした自然の豊かさを感じた次第であった。



役員改選風景

世界ハラール評議会におけるテクニカル委員会議長のレポート

イスラーム研究所シャリーア専門委員会
科学委員会副委員長 小林 榮三

世界ハラール評議会（中国、青島市、2009年11月）の席上、テクニカル委員会委員長、Dr.Ahmad Al-Absy（アメリカ）からレポートが提出されました。

近年、食品、化粧品、薬品などの製造のための科学技術は急速に発展し、それらの製品のハラール認証のためには、高度な自然科学的知識が必要となっています。さらに、科学的知識に基づくハラール認証基準の世界的統一が緊急の課題となっています。そのため2009年5月には、インドネシアLPPOM（イスラーム学者評議会附属食品薬品化粧品検査所）主催により、インドネシアのボゴール市で、各国のハラール認証団体向けの研修会が開かれました。この様子は、研修会に参加した遠藤利夫氏が、『イスラーム研究所 ニュースレター』（Vol.7.No.2）に詳しく報告していますので、そちらを参照してください。研修会では、LPPOMの編集した”SCIENTIFIC JUDGMENT FOR HALAL MATERIALS” “HALAL AUDITING PROCEDURE OF MUI FOR FLAVOURINGS”が使われています。

世界大会で示されたDr.Ahmad Al-Absyのレポートは、現在のハラール認証の問題を体系的・総合的に整理したものではありませんが、テクニカル委員会は、世界基準を作成するために重要な役割を担うことが期待されているので、テクニカル委員会委員長の現在の問題意識を知っておくことも有益だと考え、発表されたレポートをご紹介します。以下はレポートの翻訳です。



テクニカル委員会代表

世界ハラール認証基準を更新するための提案

ハラール認証機関によってなされるハラール認証についての下記の課題について検討し、助言、見解、宗教的判断、科学的・技術的経験を聞かせてください。それらは、まずテクニカル委員会で、その後General Assemblyで、世界ハラール認証基準に取り入れるかどうか論議されます。

1. 社会におけるハラール認証者のルールとハラール認証の目的。
2. ボトル詰めされた水の認証
3. あらかじめ加工用にカットされた野菜と缶詰の果物の認証

4. 保存食品のためのガス噴射処理及び他の保存方法の問題
5. ガス処理（Gaseous stunning）による屠畜についてどう考えるか。
6. 加工された海産物を認証すべきかどうか。
7. イスラーム教徒消費者に受け入れられるために、製品にアラビア語のラベルを付すだけで十分か。
8. 食品加工に使用される包装紙を認証すべきか。
9. 食品添加物（表2参照）及び保存剤の認定リストを作成できるか。
10. 缶詰製造に使われているBPA（表3参照）をチェックすべきか。あるいはそれが可能か。
11. どのような物質が動物の飼料（飼料添加物 表4参照）として禁止されるべきか。禁止された物質を飼料として飼育された動物の肉、又はその動物由来の副産物を認証できるか。
12. 動物福祉（表5参照）のために要求されることを満たした声明をどのように表明すべきか。また、それは動物の権利団体や活動家の主張と、どの程度一致させるべきか。
13. 動物の輸送と飼育のために何が必要か。
14. 殺菌や微生物防除の方法として食品への放射線照射（表1参照）は認証できるか。
15. 食物の準備や料理について、事前に注意すべきことの助言を加えるべきか。
16. ラベルの信頼性について。
17. どのような昆虫生成物がハラールか。Shellac（シエラックまたはセラック）はそのうちの1つか。
18. 遺伝子組換え作物・動物はハラールとして認められるか。
19. クローン動物及びその肉はハラールとして認められるか。
20. すべての化粧品及び靴・革コートなどの耐久品を認証する必要があるか。
21. 誰が倉庫、トラック、店の棚の食物を監視すべきなのか。これはハラール認定者の責務なのか。

以上のことについて、シャリーア委員会にご意見をお寄せください。

表1：放射線照射

- 食品への放射線照射は、有望で、新しい、安全な技術であり、食品から病原菌を除去し、食物によって媒介される多くの病気を予防する。また、ミルクの低温殺菌、缶詰食品製造に用いられる圧力製法、放射線照射などは、食物によって媒介される病気の病原細菌や寄生虫を防除する。放射線照射された食品を食べる動物・ヒトに対する照射の影響は広く研究されているが、これらの研究は、放射線を食品へ照射してもよいということをはっきり示している。
- 病原菌は減少するか除去される。
- 食品は放射線の影響を受けない。
- 危険な物質は食品の中には生じない。
- 食品の栄養的価値は基本的には変化しない。

アメリカで放射線照射が認可された食品

食肉については、FDA（米国食品医薬品局）とUSDA（米国農務省）によるそれぞれの認可が必要である。

認可年	食物	量 (kGy)	使用目的
1963	小麦粉	0.2-0.5	カビ防除
1964	馬鈴薯	0.05-0.15	発芽防止
1986	豚肉	0.3-1.0	旋毛虫防除
1986	野菜・果物	1.0	害虫防除と保存期間延長
1986	ハーブ・スパイス		殺菌
1990 (FDA)	家禽	3	病原性細菌防除
1992 (USDA)	家禽	1.5-3	病原性細菌防除
1997 (FDA)	食肉	4.5	病原性細菌防除
1999 (USDA)	(保留)食肉	4.5	病原性細菌防除

表2：食品添加物

機能によって19のカテゴリーに分けられる。

- Anticaking agents (固着防止剤)
- Antioxidants (酸化防止剤)
- Artificial sweetening substance (人工甘味料)
- Bleaching agents (漂白剤)
- Food Colours (着色料)
- Emulsifiers (乳化剤)
- Enzymes (酵素)
- Flavour enhancers (香料増強剤)
- Flavour (香料)
- Flour treatment agents (小麦処理剤)
- Food acids (酸味料)
- Humectants (保湿剤)
- Minerals (ミネラル)
- Mineral salts (無機塩類)
- propellants (充填ガス類)
- Thickeners (増粘剤)
- Vegetable gums (植物性ゴム)
- Vitamins (ビタミン)

表3：BPA

- Bisphenol A (ビスフェノールA) は通常BPAと略される。これは2つのフェノール部位をもった有機化合物である。いくつかの重要なプラスチックやプラスチック添加物の生成を阻害する。年間2~3百万トン生産されポリカーボネート生産にとって重要なモノマーとなっている。
- 1930年代以来、ヒトにとって有害物質ではないかという疑いがもたれ、幾つかの政府がその安全性に対する疑問の報告を出して以来、2008年にはニュースメディアでその使用について絶えず報道されてきた。そして、小売業者が、棚からその製品を撤去する例もあった。

表4：飼料添加物

動物の飼料には、自然由来物質の他に合成物質や食品添加物が入っている。さらに(植物由来・動物由来)の蛋白、成長ホルモン、ビタミン、ミネラル、さまざまな薬品も添加されている。薬品には

次のようなものがある。

- 病気感染予防のための抗微生物薬(例えば抗細菌薬)
- コクシジウム寄生虫防除用の抗コクシジウム薬
- ウシの発情(雌の体温サイクル)を抑制するためのホルモン剤
- 寄生害虫防除のための駆虫薬
- ある種の病気を予防するためのサルファ剤
- 肉用に飼育される家畜の(過剰な脂質のない)赤身生産を促進する β agonists
- 過剰なガスが原因で起こる胃・腸管の腫脹抑止薬

表5：動物の福祉

全米の大学と企業グループの専門家の連合は「North of American Food Animal Well-being Commission for Beef (NAFAWC-Beef)」を組織している。

21のグループが動物の福祉について調査を推進し、定期的に意見を交換し、時宜に合った方法を供している。

この組織の目的の1つは、家畜飼育の実施に対して科学に基づいた助言を提供することであり、食品生産のチェーン全体に対して公的な啓蒙活動を実施することである。



青島の町並み



青島観光スポットの西洋館

キルギスでの結婚

東京大学人文社会研究科スラブ語スラブ文学コース研究生
アリマベコワ アイーダ

キルギスでは略奪結婚という結婚形態がまだ行われているといわれています。結婚できない男性が女性を誘拐して、そのまま一晩監禁してしまえば、女性の貞操が失われたとされ、そのまま結婚してしまうという結婚形態です。そこで、今回はキルギスからの留学生アイーダさんにキルギスの略奪結婚について語っていただきました。

キルギスの場合は、花婿が花嫁を盗むと言う習慣があります。目当ての女性が道を通っている時に、何人かの男性が女性を車に入れて、花婿になる男性の家に連れて行きます。これは「盗み結婚」もしくは「略奪結婚」と呼ばれています。

連れてこられた女性は泣いたりして反抗しますが、女性の方は無力で、強制的に敷居をまたがさせられます。女性が連れてこられた時、玄関に入る前に、花婿の母親が大きな入れ物に入れたキルギスの伝統的なパン（ポルソク）やお菓子などを頭から浴びさせます。

そのうちに、娘が盗まれた事に気づいた親が娘を追いかけて来ます。ところが、たいていの場合、親が娘が盗まれた事に気づかなかったり、気づくのが遅かったりと言うケースは少なくありません。

女性の親が追いかけてくるまでに、男性側の親が女性に敷居をまたがせて、長い、足が隠れるようなドレスを着させて、頭に三角巾（さんかくきん）を巻いてしまいます。結婚している女性は髪の毛を三角巾で隠さなければなりません。キルギスでも、三角巾を巻いている女性はすなわち結婚している女です。女性は「Koshogo」がある部屋に入られます。Koshogoと言うのは、日本ののれんに似ているものですが、基本的に赤色かピンク色で、花嫁を隠す為のものです。

親は娘を連れて帰るつもりで来るのですが、男性側の親は女性を引っ張ると、女性の親も引っ張るので、女性の引っ張り合いが続きます。ところが、女性の親は娘が可哀そうになるので、本人に「どうするの」と聞きます。そこで、女性が「残ります」と言ったら、その家の花嫁になった事になります。ところが、「帰ります」と言ったら、そこで、田舎のお年寄りが集まって、女性に対して、「一回敷居をまたいでしまっているから、帰ってしまうと幸せになれません」というような恐ろしい事を言って来ます。また、キルギスにはKargysh（「あなたは不幸になってしまえ」とか「一生苦しみなさい」というようなお年寄りからの悪口）があり、お年寄りの言っている事に逆らってはいけないとほとんどの人が思っています。お年寄りを怒らせてしまうと、Kargyshは現実起こるとみんな信じています。ですので、Kargyshもしくはお年寄りの呪いが怖くて、残ってしまう女性がほとんどです。どうしても女性が「帰りたい、帰りたい」と言うのであれば、場合によっては一人のお年寄りの女性のところに行って、土下座して頼みますが、お年寄りから「私の頭をまたいでしまえ」と言われてしまいます。そこで、女性はお年寄りの頭をまたげないので、残る事になります。ところが、全く面識のない男性とこれから生活していく事は不安だと思ふ女性は、追いかけてきた親と一緒に帰ってしまうケースがたまにあります。その時は、お年寄りたちはかなりひどい事を、女性と女性の家族に対して言うので、非常に怖いのです。

女性が残る事になったら、花嫁・花婿の親や既に集まっている親戚たちはDastarkon（床においてあるパンやお菓子や様々なご馳走）の周りに座り、お年寄りたちやみんなで「二人の幸福」を祈って、お茶を飲みます。それから、先に花嫁の親が帰って、食卓などの準備をします。それから、花婿の父親の親戚たちがやって来て、花嫁の親や兄弟にプレゼント、基本的には服をあげます。

羊を殺して、羊肉を煮込んで、両家は二人の為にどうすべきかについて一晩中話します。男性が長男である場合は、マンションや車を買って、

どこそこの町に住ませようと言う話になったりしますが、男性が末子である場合は、親と一緒に住んで、親の面倒を見ていく事になります。ところが、花嫁がまだ学生でしたら、卒業まで花嫁が通っている大学の町に二人で住むのは基本です。

勿論、新郎側は新婦側にKalymをあげることになります。Kalymは新郎側から新婦側に送られてくるお金です。金額は決まっていますが、花嫁が高学歴で、家庭的であればあるほど、Kalym（新婦の親に送られてくるお金）は高くなります。送られた金額、ようするに、Kalymによって、新郎側が新婦をどう評価したのかがわかります。この金額が低いと、新婦側は気分を悪くします。

ここにあげた略奪結婚は特殊な結婚形態です。そこで、最後にキルギスの一般の結婚についても説明をしておきます。

キルギスは移民が多いため、様々な文化が取り入れられています。特に、結婚形態においては、様々な結婚の種類があります。たとえば、許婚やお見合い結婚や恋愛結婚などです。ここで、一番代表的な結婚形態、お見合い結婚と恋愛結婚について記したいと思います。

まず、お見合い結婚ですが、おとなしい独身の女性の親の友達は、たまたま、どこかの会で「このようなおとなしい子がいるのですが」と話し出し、その会に一人の息子がいる夫婦が同席しているのであれば、必ずと言っていいほどにその女性の評判や受けてきた教育、生い立ち、親の職などについて聞きます。そこで、条件が合えば、話が「息子の話をしてくれませんか」という内容につながります。そこで、仲介者を通して、顔合わせになるのですが、男性の両親は、息子さんを連れて、女性の家に来ます。女性の両親は様々なご馳走を作って、男性と男性の両親を迎えます。そこで、女性と男性は、お互い波長が合えば、「翌日の予定は？予定がはいってなければ、映画でも見に行きませんか？」という話をしたり、お互いの趣味を聞いたり、話が盛り上がります。それで、翌日からは、男性は女性の家を訪ねて、車で女性を映画や美術館やレストランにつれていきます。結局は、このようなデートを積み重ねて、男性と女性はお互いを知り尽くし、結婚につながります。

そこで、また親同士の話し合いがあるのですが、このようなお見合い結婚の場合は、新婦側は金額（kalym）を指摘するのが一般的です。親によっては「kalymはいりませんが、その代わりに、結婚式の全額を負担してください。そして、娘の車を新しく買っていただき、二人が快適な生活が送れるような状況を作ってください」と指示を出します。たとえば、家具を変えてくださいとか、二人の数か月分の食費を負担してくださいと、言った内容です。

恋愛結婚は、文字のごとく、お互いを好きになって、結婚します。大学での出会い、職場での出会い、友達の誕生日パーティでの出会いなどが一般的です。恋愛結婚の場合は、結婚を決心したら、女性も男性も親にその旨を伝えます。そこで、まず、男性は自分の家に女性を連れてきて、親に紹介します。それから、男性の親は女性の親の都合を聞き、女性の親の都合に合わせて、豪華なレストランで席を予約します。そこで、女性の親と男性の親は顔合わせをするということになりますが、「よろしく願いいたします」とお互い挨拶をし、席に座ります。それで、食事をしながら、kalymや結婚式の日取りや結婚してから二人がどこに住むかについて話し合います。

このように普通の結婚が行われる中で、先にあげた略奪結婚がまだ数少ないながらも行われていることに、私自身反省を感じています。略奪結婚について、私自身の意見を述べますと、略奪結婚は、やはり、女性に害を与えるのではないかと思います。好きな人と結婚ができず、波長が合うか合わないか、相性がいいか悪いかわからないか、その方の収入、職種、家庭事情、生い立ちを、何も知らずに、単に「Kargysh」が怖いから、その人と住むことになるのは、そもそもあり得ないと思います。可能であれば、略奪結婚をなくすべきだと思います。

エジプトでのラマダーン体験

拓殖大学 国際学部 二年 角谷 美法

このたび、拓殖大学からの交換留学生としてエジプトに行くことになった私は、カイロに着いて早々、イスラームの五行の一つであるサウム、断食を体験することになった。ラマダーンとはイスラーム暦で言う9月。イスラーム暦は太陰暦でその周期は一年で太陽暦と11日ずつずれていき、今年8月22日から始まった。ムスリムはこの期間、日中の飲食、喫煙、性交が禁じられ、声を荒げたり口論することも控えなければならない。彼らは体力を消耗しないように、極力昼間は歩かない。開いている店もまばらだし、ムスリムでなくとも、断食をしている人の前での飲食も気が引けるので、結局こちらも付き合ひ断食をすることになってしまう。みんなやはりどことなく疲れており、大事な案件はイード明けにしてくれと言われ、物事が何も進まない始末。ところが午後6時が近づくと、街がだんだんとざわつき始める。ここでは、日没後の食事「イフタール」の時間に間に合わせようと家路を急ぐ人々や、逆にお腹を空かせたエジプト人たちのために必死に働く料理人、時間に間に合わない人たちのためにデーツを無料配給する人たちの姿がうかがえる。そして、アザーンの音がきこえてきたらみんな食事をとり、飲食店が開店し、夜の街は一気に賑やかになる。昼は人気のない大通りが、夜には人でごった返し、ラマダーン明けのお祭りで食べるお菓子や食材を求めてお菓子屋さんやスーパーに人が群がる。まさに昼夜逆転の生活、日本では深夜0時過ぎても子どもが外を歩くななどありえないが、こちらではラマダーン中は子供の夜更かしが許されるのか、深夜にショッピングをする家族連れなどをよく見た。こうした生活が一カ月続いた後には、断食明けのお祭りイードル・フィットルが待っている。イードル・フィットルはイスラーム暦での10月1日であるが、こちらでは新年のような扱いをされていて、日本で言う「新年あけましておめでとう」というような挨拶が交わされ

る。日本の新年といえば、毎年1月、冬の寒い中で厳かに行われるが、イスラームでは先述の通り太陰暦を使用しているため季節は固定されず、なにより賑やかなのが特徴だ。シルバーウィークを利用してエジプトにきた観光客にとっては都合の悪いことに、店はすべて閉められ、帰省ラッシュで交通機関もひどく込む。この時期、それぞれの家庭では親戚同士の訪問が盛んに行われ、どの家庭でも来訪者には「カハク」と呼ばれるクッキーのようなお菓子和、それはそれは甘いシャーイが振舞われる。面白いことに日本の「お年玉」のような習慣もあり、子供たちは新しい洋服を着てそのお小遣いを心待ちにしている。ナイル川のほとりでは音楽が大音量で流され、大騒ぎ。その様子は正月というより、夏の盆祭りに似ていると思った。また、この時期盛んに行われるものに結婚式がある。エジプトの新聞紙「Al-Ahram」によれば、ラマダーン後4日間の中で、なんと20万カップルの結婚式が行われるというのだからすごい。夜から始めて朝まで踊り通すのがエジプト流。式場が道端であることもしばしばなので、偶然とおりがかっただけで盛大な宴会に参加でき、私も一度ごちそうを頂くことができた。道路では新郎新婦を乗せたデコレーションカーがよく通っていて、そのたびに微笑ましくなった。そして、ラマダーンもイードも過ぎた今、エジプトは本来の姿を取り戻している。

周りを見渡せばどこも人ばかり。観光地はツアー客で賑わい、ハンハリーリなどのスークでは、常に喧嘩とも取れる調子で値段交渉が行われている。この国は、確かに問題も多く抱えてはいるが、アフリカ第2位の人口規模を誇り、NEXT11に入るだけのパワーを持った国なのだなと改めて感じる。しかしながら、このパワーにしばしば疲れてしまうのも確か。車のクラクションがけたたましく鳴り響くカイロの街で、陽気なエジプト人のしつこい冗談に付き合わされると、ラマダーン中の、静かにクルアーンを読み、いくぶん穏やかに話すエジプト人たちをひどく懐かしく思う。

正統四代カリフの時代 (4)

イスラーム研究所所長 森 伸生

《前号からの続き》

その答えを求めめるかのように、啓典の知識を持つ者や、イブラーヒームの教義を求めて生活する者、終末・来世・復活の教義を説く者、偶像から心を解き放たれイブラーヒームの主を信仰する者へと、彼はより頻繁に足を運ぶようになった。

彼らの言葉一言一言が、アブーバクルの心を捉え、彼を震撼させ、来る日も来る日も彼らのもとへと引きつけた。

だが、コッス、ザイド、ワラカイづれにしても、自分の信仰の追求に懸命であったが、組織的な布教を行なうこともなかった。クライシュ族の偶像崇拜や先祖伝来の慣習に挑むような新宗教を唱えるわけでもなかった。クライシュ族も彼らには何も敵愾心を持つこともなかった。また、彼らが今にも人生を終えそうな老人ばかりであったことで、クライシュ族も全く彼らを相手にはしなかった。しかし、純粋に彼らの新たな教えに驚き共鳴した者はアブーバクルのように、クライシュ族の宗教を否定せざるを得なかった。

アブーバクル、彼はクライシュ族の中でも重要な地位を占める指導的立場の人物であった。そのような彼が果たしてコッス、ワラカ、ザイドの考えの信奉者であると主張して良いかどうか、迷っていた。たとえ、これら三人についてクライシュ族が何も行動を起こさないにしても、アブーバクルの場合はやはりクライシュ族も無視することはできないであろうと、考えていた。

だが、自分の気持ちに忠実であるべきか否か躊躇するなかで、アブーバクルの心が一瞬煌めきが走った。それはムハンマドの姿である。ムハンマドは家柄もよく、歳の頃もアブーバクルと同じように働き盛りであり、人々のなかでは一際輝いていた。ムハンマドはそのような状況でありながらも、静かに偶像からは目を背け、ジャーヒリヤ時代の愚昧で無益なことを遠ざけて過ごしていた。仲間が遊びに誘っても、彼は誘いを断つて言うには、「私はそのようなことをするために生まれてきたのではありません。」

そして、彼は真理について明白な証明を求めて、一日中瞑想して過ごすことがあった。アブーバクルはクライシュ族の反感を買うことなく、ムハンマドと同じような方法を取ることができると思い、気持ちが非常に楽になった。

ムハンマドは偶像を貶すことはなかったが、同様にそれを誉めることもなかった。偶像に他の者達と一緒に頭を下げることもなかった。彼は自分の内側に自分の世界を形成し真理を探求し続けた。アブーバクルはそのようなムハンマドに理想の姿、模範的姿を見いだしていた。そして、

ムハンマドの行動を思い出しながら、彼自身クライシュ族に注意を払い、真理探求の道を進むことを決意した。

ムハンマドがハディージャと結婚して、アブーバクル達大商人の住んでいる区域に引越してきてからは、一層アブーバクルとムハンマドの仲は親密になっていた。当然、ムハンマドの探求方法とアブーバクルの探求方法は自ずと違っていた。ムハンマドは瞑想を行い、内面から聞こえてくる声に耳を澄ませていた。

アブーバクルは熟考して、敬虔な探求者や知恵者の英知や論理に耳を澄ませていた。アブーバクルはコッスやワラカやザイドなどの言葉を自分のものとして、真理探求という彼の本性を豊かにしていた。

半島の各地から部族が集まってくるウカーズ市で雄弁を奮っているカッスの言葉を、イスラームになってからもアブーバクルは忘れることはなかった。

「人々よ、聴きなされ、注意して聴けば、そなた達のためになる。生きているものは死んでしまう。死んだものは滅びてしまう。やってきたすべてのものは過ぎ去る。天には啓示があり、地には訓戒がある。大地、高々と聳える天空、流れる星、大海原……をしかと見よ。アッラーのもとには一つの宗教があり、アッラーはそれをそなた達の宗教よりも祝福する。人々は行ってしまっても戻ってこない。彼らは現状に満足して生きているのか、それとも諦めて眠ったのか? …」

また、ザイドが老体をカアバ聖殿にもたせ掛け、喉の奥底から絞りだすように人々に呼び掛けた言葉にアブーバクルは稲妻のような衝撃を受けた。

「クライシュ族の衆よ、私の魂を手中にするお方に誓って、そなた達の中では私以外にはイブラーヒームの宗教を受け入れた者はいない。私はイブラーヒームとイスマエールの教えに従った。…私はイスマエールの末裔から預言者が現われるのを待っているのである。未だ私は預言者に会えていないが、きっと現われる。」

それから、側に居たアーミル・ブン・ラビーアに目を向けて呼び掛けた。「アーミル・ブン・ラビーアよ! もしそなたが生き長らえたならば、預言者に私からの挨拶をよろしく頼むぞ。」

(後に、アーミルは預言者ムハンマドが現れると、すぐに教えを受け入れムスリムとなり預言者と共に戦っていく人物となる。)

ザイドは人々を掻き分け、カアバ聖殿の周りを廻るとき唱えていたことは「あなたの御前に、我はいます。真実なるお方、真実なるお方……あなたにお仕えします。下僕として。…イブラーヒームが救いを求めたお方に私は救いを求めます。…」

(以下次号へ続く)

ムハンマドとイスラームの誕生(10)

フダイビーヤから帰ってきた直後、ムハンマドはハイバルへの攻撃の準備を進めるとともに、アラビア半島を囲む近隣諸国の支配者に書簡を送り、イスラームの布教にも努めた。それはハイバルに出撃する数日前のことであった。

(21) ハイバルの戦い

ムハンマドはフダイビーヤからマディーナへの帰り道、ハイバルのユダヤ教徒征伐を決意した。それは戦利品めあてに巡礼に参加した遊牧民の不満を解消するための戦利品獲得はもちろんのことであるが、ハイバルに追放されたナディール部族のイスラーム教徒への執拗な反抗が続いていたので、それに対する懲罰をも考えあわせていた。628年5月（H. 7年1月）、ムハンマドは1600人の軍勢を率いてハイバルへ向かい、ユダヤ教徒に奇襲をかけ、彼らの砦を陥落した。降伏の条件として、毎年、なつめやしの収穫の半分をイスラーム教徒に差し出すということであった。ハイバルにつづいて、近隣のファダクやワディ・ル・クラのユダヤ教徒も相次いでムハンマドに降伏した。これによって、ムハンマドとユダヤ教徒のなかい抗争に終止符が打たれた。しかし、ムハンマドは彼らにイスラームを強要せず、「啓典の民」として信仰の自由を許し、イスラーム共同体内での共存を許した

(22) マッカ征服

フダイビーヤの盟約の通り、629年3月（H. 7年11月）、ムハンマドは巡礼を挙行了した。巡礼は秩序正しく行なわれ、マッカ住民に深い感銘を与えた。そして、たとえ、イスラームがマッカを支配しても、マッカが巡礼の中心となることにはかわりがないことをマッカの住民に知らしめた。ムハンマドはこの巡礼の時に、自分の親族ハーシム家の人々との関係の修復を計ることに努め、マッカ無血征服実現の為の布石とした。また、一方宿敵アブー・スフヤーンとも接触したようである。

629年の暮（H. 8年8月）、フダイビーヤに違反する重大な事件が起こった。それはムハンマドと同盟関係にあった遊牧民フザア族とマッカと同盟していた遊牧民バクル族との殺傷事件であったが、バクル族はマッカのマフズム家から大量の武器を調達していることが明らかになった。この重大さに狼狽したマッカの長老アブー・スフヤーンは一人マディーナのムハンマドのもとにいき、マッカの住民に抵抗を断念させる代わりに、無抵抗のマッカの住民を隣人の保護にするとする承認を取り付けた。ムハンマドはマッカ征服の準備を秘密裏のうちに進め、630年1月1日（H. 8年9月）にムハンマドは本隊を率いてマディーナを出立した。秘密は完全に保たれ、途中から遊牧民が加わり、マッカに到着したときには本隊は1万人になった。1月10日の夜、1万の大軍が松明をかざしてマッカの住民を威嚇した。それを見て、マッカの住人は完全に戦意喪失した。アブー・スフヤーンとクライシュ族の主だった人々はムハンマドの前に降伏した。翌日、ムハンマドは軍勢を四方からマッカに突入させた。一部に抵抗があったが、クライシュ側に28名、イスラーム側に2名の戦死者が出たにすぎず、マッカは事実上無血征服された。ムハンマドはマッカに入ると、すぐにカバ聖殿に行き、その中に入り立ち並び300数体の偶像を破壊し、ジャーヒリヤ時代が終わったことを告げた。マッカの市内にある偶像ばかりでなく、郊外にある女神ウッザーとマナーートの神殿も破壊された。

イスラーム、アラビア半島を制す

(23) フナインの戦い

マッカ征服後の様々な問題をムハンマドが処理していたとき、マッカの東方フナインに新たな脅威が起こっていた。フナインに、ハワーズイン連合部

族とサキーフ部族が2万人からなる大軍を集結し、マッカを虎視眈眈と狙っていた。ハワーズイン族はクライシュ族と永年にわたりヒジャーズの覇権を争ってきたが、ムハンマドのマッカ征服を聞き、その混乱に乗じてムハンマドを倒してマッカおよびヒジャーズの覇権を夢見たのだろう。ムハンマドはハワーズインの大軍の集結を聞くと、マッカ住民を護る「隣人の保護」の義務をはたすべく即座に無傷の1万の軍勢をフナインに向けた。

その時、クライシュ部族2000人がそれに参加した。ムハンマドの軍隊は1月27日（H. 8年10月）にマッカを出て30日にフナインに到着した。翌日、戦闘体制に入ったが、敵の大軍に遭遇したとき、ムハンマドに従った遊牧民の団が敗走し、最初ムハンマド軍は苦戦したが、ムハンマドはムハーシルーンとアンサーールを率いて 果敢に戦い、戦況は好転し大勝利を納めた。この時の戦利品は金・銀・宝石・武器・らくだ・羊など莫大な量であった。その5分の1はムハンマドが取り、残りを従軍兵士全員にラクダ4頭分が割り当てられた。クライシュの有力者や遊牧民の指導者たちにはそれぞれの地位によってラクダ50頭から100頭分が特別に与えられた。これはムハンマドが彼らの今後の協力を期待したからである。これを契機に彼らはイスラームに改宗していった。この戦いでムハンマドがクライシュ族と共通の敵を倒したのは、征服後のムハンマド側とクライシュ族側との和解に大いに役立った。

研究会報告

【平成21年度第3、4回タフスィール研究会開催】

今年度第3回目のタフスィール（クルアーン解釈）研究会が、9月26日午後2時より文京キャンパスC館で開催された。この回は柏原良英講師がクルアーン第5章の35～50節を読んだ。このテーマでは特に窃盗の罪の刑罰などについて書かれている。続いて第4回目の研究会が、11月21日午後2時から文京キャンパスC館で開催された。この回は有見次郎講師がクルアーン第5章の51～71節を読んだ。ここでは特に啓典の民（ユダヤとキリスト教徒）のマディーナでの立場が、預言者ムハンマドと対立していく様子が語られる。

محتويات العدد

1. المحاضرة الإسلامية الثالثة (إمكانية إنشاء مصرف إسلامي في اليابان)
الأستاذ الدكتور وهبة الزحيلي
2. اجتماع العام لمجلس الحلال العالمي في الصين
أستاذ زائر بمعهد دراسات الشريعة: توشينو إندو
3. زيارة مسجد تشينتاأو في الصين
عضو لجنة الشريعة بمعهد دراسات الشريعة: تاكوأو آراء
4. تقرير رئيس اللجنة التكنيكية في اجتماع مجلس الحلال العالمي بالصين
نائب رئيس لجنة العلوم بمعهد دراسات الشريعة: إيزو كوباياشي
5. مقال: زواج في قرغستان
طالبة في قسم الأدب، اللغة السلافية في كلية الدراسات الإنسانية في جامعة طوكيو
: أعيددة ماليا بيكو
6. مقال: رمضان في مصر: طالبة في جامعة تاكوشيوكو، كادويا
7. مقال: الخلفاء الراشدين (4)
مدير معهد دراسات الشريعة: نوبوأو موري
8. السيرة النبوية (10)
أخبار المعهد: الدورة الثالثة والرابعة لدراسات التفسير سورة المائدة